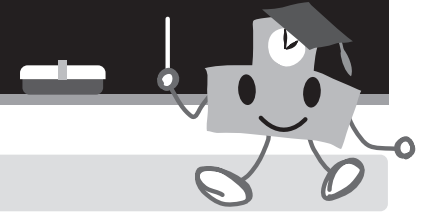


小学校の事例 北区 北陽小学校

ミニ遠足で利用する公園で、清掃活動。 たて割りグループでの実施で学年間交流も。

高学年と低学年がグループとなり自主的に計画した清掃活動。身近な公園をきれいにすることで、自然や環境を大切にすることが育っていくことに。



内容 5～6年がリーダーになりごみ拾い

本校では4年前から、学校の花であるコスモスにちなみ「コスモスグループ」と名付けたグループによる清掃活動を行っている。本校は以前から、学校近くにある5～6箇所の公園をミニ遠足などでよく利用しており、そのお礼として、年に一回、公園の清掃を行うようになった。

5～6年になったら自分たちで計画を立てて下級生を引っ張っていけるんだ」と高学年に憧れを抱くようになってきている。

活動は30人12グループのたて割りのグループで取組んでおり、5～6年生がリーダーになって計画を立て、ゲーム（遊び）や清掃場所の計画、下の学年に指示を出すことなどを積極的に行い、自主的な活動を進めている。この活動を通じ、低学年は「私たちも



コスモスグループでの遊びのようす

今後 活動の継続・発展を検討

いつもお世話になっている地域をきれいにしようと、児童は一生懸命に取り組んでいる。実施回数は年1回と多くはないが、自然や環境を大切にしようという意識が少しずつ育っているようすである。

平成23年度から新学習指導要領が全面实施されるので、教科の指導内容が増え、行事などにあてる時間も少なくなることが考えられる。来年以降のようすを見ながら、実施回数を増やす、清掃場所を広げるなど、今後の清掃活動の内容を検討していきたいと考えている。



公園での清掃活動

広げよう つなげよう 環境学習の輪

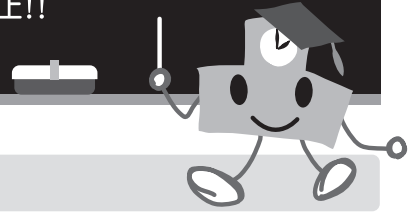
実施校からメッセージ

環境に関する学習は、まずは家庭で日々の生活を見直すこと。その中で自分たちができることを考え、実践できることから始めるのが大切です。知識を得るだけではなく、学んだことを身近なものに置き換えて考えられるようになってほしいです。自分たちが出しているごみは、集められた後、どんな過程を経ていくのか。都府県ではどのようにしているのか、といったように、発展させて考えられるようになってほしいと思います。

小学校の事例 北区 光陽小学校

マガモが泳ぐ川になった！ 清掃活動から地域や社会、環境全体を学習。

安春川を全校生徒で清掃。同時に川の観察や調査も。下水処理場の見学も実施し、川の理解が深まる結果に。自分たちできれいにすることで、汚さない意識が向上!!



内容 自分たちの手で カモが棲むきれいな川に

本校では、1～2年は生活科、3～6年は総合的な学習の時間を使い、学校の近くにある安春川の清掃活動を行っている。活動は町内会をとおして地域にお知らせしており、多くの方が児童の清掃を見守ってくれている。



4年 安春川での活動

また、単に清掃するだけでなく、川を観察して動植物マップを作ったり、川の歴史を調べて新聞を作ったり、川の活用方法を考えるなど、児童の学習のテーマとして安春川に親しんでいる。人工の河川で水源がなく、現在は下水処理水が流されていることから下水処理場を見学し、安春川への理解を深めている。

効果 より身近に感じることで 環境への意識が向上

自分たちで清掃することにより、安春川を汚さないように気をつけようという思いが強くなると共に、児童の間に身近な自然を大切にするなど環境美化意識が根付いてきた。特に下水処理場の見学では、汚れた水がきれいにろ過されて安春川に流れていることを改めて理解し、「川を汚してはいけない」という意識が高まっている。



4年 環境学習

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

本校には、アメリカザリガニ、ドジョウ、トウヨシノボリ、モツゴなど様々な生き物があります。そのほとんどが安春川に棲む生き物です。理科室前に飼育スペース「光陽水族館」があり、児童会の子供たちが中心となってお世話しています。